



たいしも通信

陸〇Bの方から、今回の海自の組織改編について教えて、と質問を受けました。この機会に昔から分かり難い海自の組織とその改編について、防衛関連ニュース第19弾をお送りします。

◆今回の組織改編について

海自は令和8年4月、主力部隊である「護衛艦隊」と「掃海隊群」を統合し、新たに「水上艦隊」を発足させました。今回の改編は海自創設以来、最大級の組織再編となり、護衛艦隊の伝統を継承しつつ、機雷戦を担う掃海艇や輸送艦、さらには各地方隊に所属していた艦艇等を一元的に管理・運用する体制へと移行したもので、この統合は、「迅速性」と「持続的な活動量」の確保を目指しています。・・・と言われても、特に海自以外の方にとっては「？」マークがたたくさん出て来たと思います。ということで、海自の組織についておさらいしながら説明してまいります。

◆自衛艦隊

海自には、「自衛艦隊」という事実上の実働部門の統括部隊があり、これは防衛大臣直轄部隊となっています。しかしやややこしいことに、艦隊と名がついていても、実際には水上艦艇だけでなく、航空機や潜水艦等も含まれており、「司令部」「水上艦隊」「航空集団」「潜水艦隊」「開発隊群」その他から構成されています。この中の「水上艦隊」というのが今回改編された部分で、以前はこれが「護衛艦隊」と「掃海隊群」とに分かれていました。

◆地方隊

また、さらに海自でややこしいのが陸自の「方面」に相当する地方隊で、かつてはそこにも水上艦艇やヘリ部隊が配備されていました。これらは少し前にそれぞれ水上艦隊や航空集団隷下となっています。地方隊の任務としては担当の警備区域の防衛・警備

等があり、旧海軍の鎮守府に相当します。現在は横須賀、呉、佐世保、舞鶴があり、令和7年3月に大湊地方隊は横須賀隷下の地区隊になっています。

◆水上艦隊

新編された水上艦隊には大きく3つの群があり、「水上戦群」「水陸両用戦機雷戦群」「哨戒防備群」そして訓練・補給を担う支援部隊によって構成されています。

- 1 水上戦群 (第1〜第3)
 - 各群は直轄のヘリコプター搭載護衛艦(DDH)の「いずも」「かが」「ひゅうが」を中核とし、それぞれ3つの水上戦を傘下に置いていきます。
- 2 水陸両用戦機雷戦群
 - 群直轄艦としてヘリコプター搭載護衛艦(DDH)「いせ」を配備、傘下に掃海母艦や掃海艇からなる機雷戦隊と、大型輸送艦で構成される第1水陸両用戦隊が組み込まれています。
- 3 哨戒防備群
 - 護衛艦、ミサイル艇(PG)を運用する5つの哨戒防備隊で構成され、幅広い地域での哨戒や防備を担います。
- 4 訓練・支援部隊
 - 艦隊の運用を支援・指導する組織として、水上訓練指導群、第1水上補給隊、第1水上訓練支援隊で構成されます。

▼編集後記▲▲

鎮守府は元々昔のフランス海防思想の名残らしいのですが、大元の目的である地域防衛の所要が減少し、そもそも海自は艦艇も航空機も管轄警備区を超えて活動していることがほとんどであることから、今回の改編でより現実的になったと言えます。例によって、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。